

## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# けいじゅヘルスケアシステム

2004年初夏、特別医療法人財団薫仙会恵寿総合病院の神野正博理事長は、これから取り組んでいくあらたなチャレンジに思いをはせていた。理事長に就任してからの10年余り、経営不振からの脱却を目指して息つく間もなく次々と病院改革の新たな取り組みに挑戦してきた。企業との数々の提携によって病院初の試みをいくつも導入し、軌道にのせてきた恵寿総合病院は、能登半島の中央部という決して恵まれているとはいえない地理的条件にありながら、メディアにも取り上げられいまや病院関係者注目の的となっていた。知名度も格段に高くなり、日本中から視察を希望する訪問者や問い合わせが引きもきらない状態になっていた。

だが、外部からの注目とは裏腹に恵寿総合病院はこの3年連続して赤字に陥ってしまった。あおぞら銀行が出した恵寿総合病院の経営評価レポートの内容も大変厳しいものであった。神野理事長は、改めて全職員に問題を強く認識させ、一層の経営努力に取り組むよう、鼓舞しなければならないと考えていた。

### 恵寿総合病院と能登医療圏

特別医療法人財団薫仙会は、「恵寿総合病院」を中心とした、関連の社会福祉法人徳充会と組織、運営を統合し、石川県内で医療、保健、介護、福祉の複合的なサービスを提供する「けいじゅヘルスケアシステム」というグループを構成している。グループでは急性期病院の恵寿総合病院（病床数454）のほか、療養型病床群、診療所、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、身体障害者総合福祉施設、ケアハウスなどの入院・入所施設、訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、通所介護、通所リハビリテーション、福祉用具貸与、居宅介護支援などの在宅サービス関連のあわせて32の事業所を運営している。中核病院である恵寿総合病院は、昭和9年に神野病院として設立され、昭和42年に法人化された。外科病院から始まった恵寿総合病院は、地域のニーズに応じて診療科を増やし総合病院へと

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ケースの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp）。また、ケースの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送は、これを禁ずる。